

平成30年度 第3回 浦添市総合教育会議 議事録

1) 開催日時及び開催場所

開催日時 : 平成31年3月25日(月) 午前10時00分

開催場所 : 浦添市役所 議会棟1階 102会議室

2) 出席者氏名

浦添市長 松本 哲治

教育長 嵩元 盛兼

教育委員 池田 博暁

教育委員 長田 隆子

教育委員 池間 生子

教育委員 下地 イツ子

《事務局等》

市長部局

副市長：野口 広行、企画部長：下地 節於、企画課長：知念 伸男、こども未来部長：仲間 陽子

保育課長：真座 佳美、こども政策課長：知花 優子

教育委員会事務局

教育部長：新垣 剛、指導部長：平良 亮、教育総務課長：大城 博郎、学校総務課長：島尻 修男

学校教育課長：川上 あけみ、学校教育課指導監：石川 博久、施設課長：宮城 直哉

3) 会議日程

1. 開会

2. 協議調整事項

(1) 浦添市立適正規模等審議会の答申について

(2) 市立浦添こども園の開園にあたって

3. 閉会

3) 議題に関する出席者の発言

○教育総務課長 (大城 博郎)

皆様、おはようございます。総合教育会議の事務局をしております教育部教育総務課の大城です。本日はよろしく申し上げます。

これより平成30年度第3回総合教育会議を開催したいと思います。

本日の協議調整事項は、2つでございます。初めに、浦添市立学校適正規模等審議会の答申について。次に、市立浦添こども園の開園にあたってということでございます。早速ですが、市長、会議の進行のほうを

よろしくお願ひいたします。

○市長（松本 哲治）

それでは、始めてまいりたいと思います。本日は、お忙しい中お集まりいただきましてまことにありがとうございます。

それでは、これから平成30年度第3回総合教育会議を開催いたします。

本日は、事務局からも説明がありましたが、2つの協議調整事項がございます。まず1つ目は、浦添市立学校適正規模等審議会の答申について協議してまいりたいと思います。

これまで、当山小学校の過大規模解消の件については、私も教育委員会ともども、説明会に参加するなど、非常に重要な問題として取り組んでまいりました。今年度、教育委員会で審議会を立ち上げて、分離校の候補地の選定についての審議を重ね、答申をいただいたということでの報告を受けております。本日はこの答申を受けて、教育委員会議に諮る前に、委員の皆様から私と協議をしたいということでございますので、今回の運びとなっております。それでは、教育委員会のお考えについて、先にお聞かせ願えますでしょうか。よろしくお願ひいたします。

○教育長（嵩元 盛兼）

それでは私のほうから、本日の協議会を希望した理由について説明したいと思います。

まず今回、委員会に設置された浦添市立学校適正規模等審議会において、慎重なる審議の上、候補地3のゴルフ場用地が最も適した場所であるという答申が出されたところです。教育委員会としては、教育環境の観点から見て、しっかり審議された内容の答申だと考えております。ただ、答申には、審議会からの強い意見として付記事項が示されており、広範囲な分野に波及することから、分離新設校の事業着手には、市長部局の関連部局との協力が欠かせません。そこで、市長と教育委員会が認識を共有し、今後の取り組みが同じ方向を向けるよう、ここで市長の考えを確認しておきたいということで、本日の協議をお願いしたところで

○市長（松本 哲治）

了解いたしました。

教育委員会と、私も属している市長部局との協力なくして、我々が今抱えている課題の解決はないと考えておりますので、今後とも市長部局と教育委員会がしっかりとすり合わせをして、協力して、問題解決に向けて取り組みたいと思っております。

まず、具体的にどのような点を御確認したいか、お聞かせいただきたいと思います。

○教育委員（長田 隆子）

私のほうから先に。その前に、昨年11月に当山小学校のさくらホールにおいて、地域説明会が開催されましたけれども、そうやって市長がみずから地域の皆様に誠意を持って説明をして、そして地域の声に耳を傾けていらしたことについて、本当に心から感謝しております。ありがとうございます。その後、学校適正規模等審議会から、慎重な審議の結果、出された答申ですけれども、市長は答申内容についてどのようにお考えでしょうか。

○市長（松本 哲治）

先ほども申し上げたように、私も含めて、市長部局も含めて、市全体で物事については協議をして進めて

いかなければならないと思っております。今回の具体的なテーマにつきましては、やはり審議会の皆様が、それぞれの専門分野を背景にして、しっかりと議論をなさって出した一つの方向性だと思っておりますので、当然ながらそれは尊重していかなければならないと私も考えております。

○教育委員（長田 隆子）

分離新設校の成就に向けて、答申に6つの事項が附帯されておまして、この事項に留意して不断の努力の積み重ねをまとめられています。この付記事項についてはどうお考えでしょうか。

○市長（松本 哲治）

委員会のほうで、皆さんが話し合った中で、どうしても提言等も合わせて附帯事項、付記事項をつけておこうということでもありますので、その意思、意義については、しっかりと我々も受けとめつつも、今回付記事項につけられた御意見についても、一つ一つきちんと我々も検討していく必要はあるだろうと考えています。

○教育委員（長田 隆子）

私たちとしては、学校用地を取得するなどの早期の事業に着手していただきたいと思っておりますけれども、その中で、付記事項の中でも特に市長が懸念されていらっしゃるの、学校用地以外の残地の問題についてだと思うのですが、これは今後大きな課題や障害になるやもしれないと考えた場合に、ぜひ市長のお力でもって、国や県へいろいろ働きかけながら、そして役所の組織としても横断的に、ワーキングチームの設置をして取り組んでいくということが必要だと思いますけれども、市長、どのようにお考えでしょうか。

○市長（松本 哲治）

この問題の発端は、当山小学校の過大規模解消が発端だと思っておりますし、それが現時点においても、やはり中心的なテーマの一つだろうと思っております。ですから、今回の分離新設案も含めて、やはりより多くの方に入っていただいて、ワーキングチームという形をつくって、市長部局を含めた形でより大きな観点から、しっかりと付記事項についても検討していくべきだろうと考えています。

○教育委員（長田 隆子）

当然ながら、私たち教育委員も一緒になって頑張っていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

○教育長（嵩元 盛兼）

今回、実は答申は、候補地3が適地ということで、まずはその場所を、候補地の中から場所をどこにするかということまで決定したわけではありません。今後、具体的な場所の検討に当たっては、ワーキングチームでの検討はもちろん、予算措置も含めて必要になってくると思います。そのあたりもぜひ、市長にはバックアップしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○市長（松本 哲治）

当然、予算編成権等も含めてこちら側にも大きな権限を有する箇所でもありますので、予算を含めてですけども、必要な協力は、我々も惜しまずにやっていきたいと考えております。

○教育長（嵩元 盛兼）

ありがとうございます。

○教育委員（池田 博暁）

市長、私から質問です。今、やりとりを聞いておまして、答申の内容について、答申が妥当な内容であ

るということを、市長は前向きにお話しされているのかなと思いました。同時に、教育委員会と方向性は一致しているという、そういう認識の共有もされているかなと、今思ったのですが、市長、そういう理解でよろしいでしょうか。

○市長（松本 哲治）

今回の答申についても、先ほどから専門の皆様がしっかりとした御議論をして出した結果でございますので、それについては、当然我々も尊重すべきであると考えておりますし、今後も、繰り返しになりますけれども、教育委員会も市長部局も一致した方向性の中で進めていきたいと考えております。

○教育委員（池田 博暁）

先ほど、市長から付記事項の5番の件で、空いているスペースの活用については、お互い検討して、予算も伴うことですので検討していかなければいけないというお話がありましたけれども、まさにそのとおりだとは思いますが、要は具体的に、事業内容として付記事項の3では、認定こども園などの事項も検討してほしいということが含めて書かれているのですが、本市の課題として、教育委員会の喫緊の課題などもあって、そういう部分も含めて、または民間との、いわゆる民間の力を借りてというのでしょうか、民間活力を生かしてというのでしょうか、そういったものも含めて、やはり検討していかなければならないものもあるかと思えます。ですから、市長が先ほどおっしゃっていたように、それと長田委員からもありましたけれども、教育長からもありましたが、ワーキングチームの市長部局の横断的な部分も含めて、あとは教育委員会も積極的な案を示していくという部分で、対応していく必要があるのかなと私は思っているのですが、そういう考え方でよろしいですか。

○市長（松本 哲治）

基本的には、今回の答申については候補地3が適地であるという結論、そしてそれについての附帯事項もあるということですが、もちろんこれは、あくまでも出発点のこの議論は、当山小学校の過大規模をどのように解消するかというところからの出発点でありますので、そこをしっかりと踏まえて、そこを外してはいけないと思っています。今回、新たな候補地の選定が終わりましたけれども、それについてもその他の土地の部分も、どうせやるならついでに、他の問題も合わせてという考えもございますが、同時に予算的なこともありますので、ついで、ついでで、もともと何の問題解決のためにこの議論がスタートしたかということが曖昧になってはいけないと思っておりますので、やはりそこはしっかりと我々が対応すべき、まずは当山小学校の過大規模をどのように解消するか。そして、どうせ一步、二歩も踏み出していくのであれば、より我々が抱えている課題についても、同時に解決していく方法はないかということ、そしてあくまでも、これは予算措置が伴いますので、財源等のしっかりとした裏づけも含めて検討して、一つ一つ丁寧に一歩ずつ答えを出していくものだと思っておりますので、あくまでもこれからも教育委員会だけで解決できる問題ではありませんので、大きな視点から結論を導いていきたいと考えております。

○教育委員（池田 博暁）

ありがとうございました。

○教育長（嵩元 盛兼）

いろいろ、市長の固い決意を聞かせていただいて、教育委員会も少し安心したと思います。今後も、早急に進めるために、教育委員会としても、次の教育委員会議にて、答申について、答申を踏まえた意思決定を

していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○市長（松本 哲治）

それでは、この協議事項について、ほかに御意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(は い)

○市長（松本 哲治）

それでは、2つ目の協議調整事項、市立浦添こども園の開園にあたってに移ってまいります。

それでは、市立浦添こども園の開園にあたってについて協議してまいります。協議の趣旨といたしましては、今年度開園した仲西こども園の成果と課題を振り返り、浦添市立としては初となる浦添こども園を含め、公立、私立にかかわらず、市がかかわっていく認定こども園がよりよいものになるように取り組んでいくためのものであります。仲西こども園の成果と課題については、委員の皆様も報告を受けていると思います。その中の成果としては、預かり保育がなくなって、連続した教育保育が行える、あるいは職員配置が厚くなり、業務にゆとりができたことで、年休も取りやすくなるなど、職場環境がよくなっているということで、認定こども園の成果が出てきているなど感じているところであります。課題では、市立幼稚園との連携の強化、あるいは子育て事業の充実などが挙げられており、取り組みを強化していく必要性もあるという内容になっています。委員の皆さんも、この報告を受けていると思いますが、何かこの点につきまして、御意見等がございましたらお願いいたします。

○教育委員（長田 隆子）

新年度より、浦添幼稚園と神森幼稚園が新たに認定こども園として開園するに当たって、仲西こども園の成果と課題を、新しい園運営に生かすために、先日、仲西こども園の成果と課題について情報提供を求めました。担当課より、書面をもって丁寧な説明を受けました。仲西こども園さんは、本市が公募した第1号の認定こども園ということもあって、公立から法人の運営になるため、学校との連携がうまくいくのか。あるいは先生方が全部入れかわるけど、大丈夫なのか。小学校へのつながりはうまくいくのかと非常に気になっておりました。しかし、行事も、幼稚園同様に学校行事にも参加できており、アンケート調査の結果も見せていただきましたけれども、保護者もおおむね満足しているということで、非常によくやっていると思っています。特に、相談室に専門の職員を配置するという点につきましては、法で定めている保護者に対する子育て支援を行うということが、法の大きな目的でもある中で、非常にいいことをされているなど感心しています。

ただ、そこでもう一つお願ひしたいのは、相談室も大事なのですが、お母さんたちのたまり場といえますか、ふれあいサロンのような場所、自由にお母さんたちが出入りできるような場所も設定してもらえるといいかなと思います。ぜひ今後、そういう努力もしてもらえたらと思います。以上です。

○市長（松本 哲治）

今回の仲西の認定こども園につきましては、皆さん御存じのように、浦添市で初めての認定こども園で、しかもこれまで、公立の幼稚園であったところから、民間主体の認定こども園に変わるということで、大変いろいろ御苦労なさったようでございます。導入までもかなりいろいろな議論がありましたけれども、今回初めてということでやっておりますけれども、いろいろな調整等、御苦労なさったと思いますけれども、おおむね、よく頑張っているのではないかと評価しているところであります。

○教育委員（長田 隆子）

おおむね満足しているという結果なのですが、やはりやや不満であるとか、不満であるという意見もまだあるわけです。その辺、どういう点が不満なのか、満足していないのかということ、さらにしっかりと検討して、確認をして、新年度に生かしていただきたい。それはまた結局新しい浦添認定こども園、神森のこども園にも、それも含めて生かしていけたらと思います。

○市長（松本 哲治）

当然ながら、全て100点満点ということではないと思いますけれども、我々が導入するに当たって、非常に懸念していたところも、うまく対応していただいたかと思っております。あとはよりよい認定こども園になっていくためにも、今、課題となっている部分についても、しっかりとさらに充実させていただこうと期待しているところです。

○教育委員（池間 生子）

よろしいですか。課題が見えてきたというのは、開園をしたからこそ見えてきたことだと考えているんですね。開園をしたこと、もっとよくしていくために、さまざまな努力をという、くくった言葉がよく聞かれるのですが、やはり公立と法人の連携をしていくというのは、文言の中にも公私連携、公私連携と何度も出てきますし、大事だとはみんなも捉えていると思います。ですが、具体的に言うと、お互いの園にいる先生方の研修会もそうですが、研修会も大事であると。大事であると言いつつ、なかなかうまくいかない部分もあって、それは何に起因しているのかということを考えるのですが、組織的なことというのは、こども未来部のほうで、そして教育内容、幼児教育については教育委員会です。普通に教育を考えると、指導と評価の一体化という文言は、すごく大事にされていて、ですが評価はこども未来部、それから指導のほうは教育委員会が受け持つという、大きく言うとそういう形に、今現在なっているわけですから、連携をしていくことについては、幼稚園とこども園の交流が持てれば良いという、いろいろな課題のところにも出てはくるのですが、やはりその辺は教育委員会と、それからこども未来部が連携をするのは必要ですというのは当たり前なので、連携をしていくために何が必要なのかという、空間、つなぎの部分が必要なのではないかと、今時点、新しく開園していくことで、少し改善の見通しがなければ、また同じことを繰り返してしまうのかと思って、少し危惧するところもあるのですが、教育委員会としての努力はしていきますけれども、その視点について、よければ市長の意見等をお伺いしたいと思います。

○市長（松本 哲治）

ざっくりと大きな話ですけれども、今までは、いわゆる縦割りの行政がいろいろな弊害を生んでいるということで、簡単に言えば、今回、認定こども園というのは、その縦割り行政を変えていこうということから始まったと思います。最初の第1校目の認定こども園ということでもありますので、そういう意味では、これまで縦割りになっていたところを、横の連携をやっていくということで、逆にいい話でもありますけれども、やはりそれなりに縦割り行政でやってきた弊害が、今、いろいろなぎくしゃくした形に出ていると思います。ですから、これはしっかりと時間をかけて、研修等も踏まえながら、やはりまずはお互いがある、きちんとどういう課題があるかということ、お互いの役割があるかということの役割分担をしながら、議論をしていくというようになれば、おのずといい方向に進んでいくと私は思っていますので、研修等も踏まえて、次年度もお互いに努力していただきたいと思います。

○教育委員（池間 生子）

ありがとうございます。

○教育委員（池田 博暁）

私からもお願いいたします。先ほど、池間委員から、研修と指導と評価の一体化という話がありました。ここの部分はすごく大事なことで、今回、認定こども園の教育保育要領であるとか、幼稚園教育要領であるとか、保育所保育指針であるということによって強うたわれていることは、いわゆる小学校との接続を、または連携、接続と連携は少し違うのですが、接続をどうするのか。その部分があって、現場では、やはり相当苦戦しているなどという話も聞いております。そういう中で、当然、接続については、教育現場で、いわゆる認定こども園でも保育所でもそうですが、小学校との接続については、具体的な取り組みはしていかなければならないのですが、もっと大事なことは、こども未来部と教育委員会がどう密接に連携をしていくのかという部分が、今、立ち上げたばかりで、特に最初の段階で問われていて、重要な部分を占めると私は今思っています。そこで、具体的な事例として少し挙げるならば、認定こども園が内部評価と管理を受け持っているわけです。内部評価、または保護者評価ですね。教育委員会は、研修と指導を受け持っているわけです。

そこで、先ほど池間委員からもありましたけれども、評価と管理、指導と研修というのが一体化されないと、現場はとてもしゃっていけない。つまり、評価はしても、それが指導につながらない。指導したけど評価が上がらないということでは、ばらばらに、それぞれが思い思いに取り組んでいては、現場が混乱して成果が上がらない。困るのは子供たちであり、保護者であるという結果になることがあってはいけないと思っています。ですから、私が一番、今大事にしたいと思うのは、こども未来部と教育委員会が密接な連携が図られるようなシステムの立ち上げ、構築をしていかないと、それぞれがそれぞれに、調整はするんだと思う、今でもやっていると思うのですが、しかしそうではなくて、しっかりしたシステムづくりをしていかないと、時間がたてばたつほど、あそこの仕事、こっちの仕事という形で、それぞれがお互い進んでいくような形になっては困るのではないかと。だから評価と指導を一体化させていって、そして現場にこれがきちんと伝わって行って現場がしっかりと幼児教育の質や、教育保育の質を向上させるためには、こども未来部と教育委員会が一つになれるような、そういう話し合いが常にできるような、そういうシステムの構築というものが、今求められているのかなと思います。それは、やはりこども未来部のイニシアチブが非常に求められておりますし、同時に教育委員会に対しても、そのイニシアチブはお互いに求められているかと思っています。ですからぜひ、そういう部分を教育委員会も市長部局でも理解していただいて、共通認識して、認識を共有して進めていく必要があると思います。私はそういうことを、市長部局も認識を共有していければいいかと思っています。

○市長（松本 哲治）

今の池田委員がおっしゃったことは、全くおっしゃるとおりだと思います。我々市長部局の中にも、昔は福祉部と健康部と分かれていたのを、やはり子供たちを真ん中にして、あらゆる方向性を見出してこうということで、組織の中でこども未来部という、子供に関するものを集めた新しい部署ができたわけです。次の段階として我々がやらないといけないのは、今度は教育委員会とこども未来部がより密接な関係、一体感を持っていくということ、この理屈は、先ほどもおっしゃっているように、やはり我々、それぞれの歴史があって、それぞれのやり方がありますけれども、やはり最後は子供たちのためだということ、最終的な着

地点にしないといけませんので、先ほどの研修と評価の違い等も含めて、子供たちにとって何が一番大切かという視点でやっていけば、おのずと研修と評価、あるいは教育委員会と子ども未来部も一致していく、あるいは同じ方向性を向いていくということは、当然起こり得るだろうと思っています。

我々が、これから教育委員会と子ども未来部がしっかりとコミュニケーションをとって、同じ方向性を向いてやっていく上で、今度は現場の皆さんに、我々がなぜこういう決断をして、なぜこういうことでこの方向性を出しているかということ、今度はまさに子供と接する現場の皆さんにお伝えしていかなければいけないと思っておりますので、そこはやはり、現場の先生方の皆さんと我々市で考えている教育行政のあり方の間に、橋渡しとして、教育委員会の役割が非常に重要になっていると思っておりますので、これからますます、現場の先生方と我々との橋渡し役になっていただきたいと考えております。その点についてはいかがですか。

○教育委員（池間 生子）

市長のおっしゃるとおりで、そういう方向性とか、それからそういう考え方が現場の先生方にも、それから教育委員会にも、子ども未来部にも、同じ方向で理解をしていくということができるようになれば、立ち位置は違っていても同じ方向に向かうということとしては、すごく、これから新たにでき上がっていく子ども園についても、いい方向性が見えてくると思います。これまで使われてきた公私連携という言葉だとか、幼小とか、それから幼稚園と子ども園という、連携が大事ですという文言の中には何度も出てくることですが、それがなかなかイメージして、先ほど池田委員がお話していたように、システム的な、システムといいますか、やはり必要ですよと、何かを立ち上げなければいけないという意味ではなくて、やはり必要なので、こういうことが大事ですよというのを、お互いが寄り合うような認識が持てるようなことで、教育委員会としても、教育委員会という教育長になってしまうのですが、教育委員会の先生方とも、ともに会話をしながら、うまく、システム的なことができ上がっていったらいいのかなと思っています。市長が、そのように今までのあり方を変えていく視点というのは大事だとおっしゃっていただいたので、安心したといえますか、立ち位置が違っていても方向が一緒なんだなということは納得できましたので、ありがとうございます。

○市長（松本 哲治）

池間委員や池田委員は学校出身なので、なかなかぴんと来ないかもしれませんが、我々、外の人から、校長先生と話をするとか、教頭先生も含めて、学校の先生と忌憚なく話をすると、例えばPTA役員をやるならいざ知らず、ほとんどないのです。ですからそういった意味では、まずは教育委員会と子ども未来部の職員と、そして現場の先生方から、きちんとしたフォーマルな形でも結構ですけども、インフォーマルな形でも、もっともっと顔を合わせて、もっともっと意見交換をして確認していけば、結局多少、表面的に意見が違っていても、みんな結局、子供たちに何がいいかということを考えてやっているということを確認していくことから、必ず解決できると私は信じていますので、これからはぜひ教育委員会の皆さんには、現場の先生方との橋渡しをしていただいて、つないでいただきたいと思っていますところであります。

○教育委員（池田 博暁）

今まさに市長がおっしゃったとおりで、子ども園であるとか、保護者であるとか、または教育委員会であるとか、行政ですね。そして現場の先生方と一緒に、多様な意見交換をするということというのは、すごく大事なことで、実際にそのことをやっていくということが、成果につながっていくのだろうと思います。そ

ういう中で、やはり私たちがこれから目指していかなければならない事柄というのは、教育現場の先生方が本当にモチベーションや、またはポテンシャルを高めていくことによって、幼児教育の質というものを高めていく、そこにつながるのだろうと、先ほど市長がおっしゃっていたことはそうなのだと思われているわけですが。ただ現実には、私たち浦添市の教育は非常に厳しい状況にあるのも事実です。不登校の問題があるとか、深夜徘徊の問題であるとか、場合によってはネグレクトの問題であるとかということで、学校現場は結構苦戦しているわけです。これは絶対に解決しなければならないことだと私は思っているのですが、それはみんなそうだと思うのですが、そのときに大事になることは、実は先ほど池間委員からも話がありましたけれども、幼稚園、保育所、それから小学校、中学校、だけではなくて、高校まで含めて、一人一人の子供に焦点を当てて、誰一人見捨てることなくきめ細かな、切れ目のない最適な支援をどうやって図っていくかと。これは市長がいつもおっしゃっている、いわゆるキッズファーストの精神だと思うのですが、そこら辺をしっかりと、教育委員会も連携をしながらやっていきたい、教育委員会は特にそれを中心にやっていかなければいけない部分ではあるのですが、どうしてもそこに立ちはだかってくることに、それぞれが担う分野の、何となく垣根みたいなものがあって、そこがなかなか取り除けないということとか、場合によっては学校と家庭、地域の連携というけれども、その部分がなかなかスムーズにいかないということもあって、そういうことの見直しを図ることができるのであれば、積極的にやっていく必要があるのではないかと考えています。

そういう中で、私が今思っているのは、やっとな窓口の一本化と、市長は先ほどもおっしゃいましたけれども、窓口を一本化すると。その窓口の本一本化というのは、ますます進めていかなければならないのですが、もう一つ大事な事は、家庭であるとか学校であるとか行政などに、それぞれ別々に存在する、一人一人の子供の情報をどうやって一元化するかという、情報化の一元をし、継続的にしっかりと管理し、一人一人の子供に合った最適な支援を可能にしていくような、そういう制度設計を図る必要があるかと私は思っていて、だから今、子ども子育て支援の年次計画を見ている、幼児教育にかかわる部分というのは、こども健康課であるとか、こども家庭課、いろいろなところの情報があって、それも幼稚園は幼稚園、小学校は小学校、中学校は中学校、高校は高校という形で、それぞれに持っているけれども、その情報が一つになり得ない。一つになり得ないために、支援がスムーズにいかない。そのために、校種が変わっていくと、最初からその子供の支援が始まるために、せっかく支援が向上してきたのに、高まってきたのにまた切れてしまうと。切れることによって、一から出直すことによって、子供たちの二次被害、三次被害ということで、結果的にはなかなか前に進まない。要するに改善につながらないという部分もあるのではないかとずっと思っていて、その情報をどうやって一元化するかということが、今教育委員会を含めて、本市がこども未来部をつくったので、こども未来部と、要するに幼児教育を所管する部分と、指導所管、教育委員会と、学校を所管する教育委員会が、情報の一元化をどうやって果たすことによって支援の最適化を図っていくかという部分を、私は考えていく必要があるのではないかと考えているのですが、市長、いかがですか。

○市長（松本 哲治）

今、池田先生がおっしゃっていることは、情報の一元化も含めて非常に大切なところだと思います。ですが、今、プライバシーの問題もいろいろありますので、非常に繊細な部分もありますので、やはりこれからは、認定こども園だけではなくて、幼稚園も学校も行政も、そして保護者、地域の皆さんもやはり一

堂に集まって、お互いに共有すべき情報、あるいはしっかりと情報管理をして、プライバシーを守っていかないといけない部分と、しっかりとその辺も議論しながらやっていく必要はあるけれども、やはり多くの方が、学校に任せるとか、親の問題だとか、地域で何とかして、市役所で何とかしてというだけではなくて、やはりこういった関係者が一堂に集まって開催できるような会議があれば、もっともっと風通しもよくなっていくのかなと考えます。

○教育長（嵩元 盛兼）

私からも。多分、去年スタートして、やはり課題が見えてきたのですが、また今年も新たに、今度は公立の浦添認定こども園が出ますので、その意味では、浦添でも課題がいっぱい出てきています。各市町村でも取り組んでいますので、その意味では、各近隣市町村の取り組みも、先生方は聞いていますし、保護者も聞いていますので、そういう意味で、浦添だけで解決するということでは、どうも進まない。ですから、その意味では、近隣市町村、先生方はずっと異動していきますので、その意味では、学校側は、それは各行政の認定こども園の問題であって、自分たちに入ってくる子供たちのために認定こども園が進んでいると。そういうことを先生方にはある程度、こちらの教育委員会も理解を進めていかないと、一体と言っても先生方が異動しているか、それから近隣市町村でもいろいろな情報が出るので、その意味では、そういう情報をきちんと全体で捉えながら、一体として子供のためにという目標を見失わないように連携が強くなってきたらと思っていますので、その意味では、近隣についての協力も含めて、市長の協力を得ていきたいと思っています。よろしくお願ひしたいと思っています。

○市長（松本 哲治）

ではそれぞれ、お互いの現場の橋渡しが必要だということは、お互い認識できたと思いますので、その部分をしっかりと進めていきましょう。

それではほかに、何か御意見はございますか。どうぞ。

○教育委員（下地 イツ子）

私は、仲西こども園でPTAのような組織、親が園にかかわるといいますか、中に入っていってともに協働する組織がないのが気になるのですが、今回出された指導要領で、これまでは生きる力、学力がトップに上がってきたものが、第一に掲げられているものが社会に開かれた学校教育ということが掲げられて、打ち出されているので、学校内だけではできない部分の協力を、保護者が中に入って一緒にとにもやっっていく、PTAみたいな組織をこれからつくっていくべきではないかと思っています。

また、仲西幼稚園の保護者の方からのアンケートの意見としても、PTAの存在は保護者同士のつながりをつくる大切な場所だと思うので、何かしらの交流の場をつくってほしい。例えば子供と一緒に園内の清掃をするという意見も出されているので、ぜひこういった組織づくりができるように、働きかけていただけないかと思っています。

○市長（松本 哲治）

恐らく、多分、これまで幼稚園や小学校でPTAというのは当たり前にあったのですが、一方、保育所では、PTAとはあまり呼ばないわけです。でも保護者会であったり、親の会であったり、名前は変えて存在はしています。今回、その両者が合体した形の認定こども園という形になっていますので、従来のPTAという組織ではないですけれども、やはり親の皆さんも実際に入って、認定こども園の運営等に関与してい

ていただくというのは、非常にいい視点でありますので、それをPTAと呼ぶのか保護者会と呼ぶのか、名前は別としまして、これは認定こども園の人とよく相談をして進めていっていただこうと私も思っております。

○教育委員（下地 イツ子）

よろしく申し上げます。

○市長（松本 哲治）

それでは、ほかに何か御意見はございませんか。

○教育委員（池田 博暁）

せんだって、神森幼稚園の修了式と閉園式に参加をさせていただきました。温かい雰囲気の中で、子供たちが本当に元気に修了証書を受け取り、あるいは自立宣言と申しますか、将来大きくなったらという形で宣言をしながら、本当にほのぼのとする修了式を迎えることができ、私もその会場に挨拶で、教育委員会を代表して行かせてもらったのですが、とてもいい修了式が行われました。引き続いて、閉園式が行われたんです。隣に、保護者会のお世話役の方がおられたので、どうですかと。認定こども園に移るに当たって、閉園をするわけだけでも、そのことに関して、皆さんそれぞれ納得されて進めていこうと、皆さんの気持ちは整理できていますかと話をしたら、やはり認定こども園に移行することについても、少しそわそわした部分もあるし、また閉園することに関しても、そういう気持ちを持っておられる方々もおられますという話をしておりました。でも私が挨拶の中で申し上げたのは、それはそうだと。当然だと。だからこそ教育委員会も、全力を挙げてやっていくし、また支援をしていく、そういうことを挨拶の中で申し上げたのですが、参加していて、保護者の皆さんは、特に神森幼稚園は45周年、45年間の歴史があるわけです。その45年間の歴史の中で、そこで育った親もいるわけです。その親たちが、またそこに自分の子供を参加させることによっていくわけですけれども、閉園することに関する感慨深いものといいますか、寂しさであるとか、複雑な心境というのがあるように思いました。やはり今回の閉園式のあり方を見たときに、私は、このような閉園式で、果たしてよかったのかと思ったのです。やはり寂しかったのです。だから、もう少し、神森幼稚園の歴史と伝統ということで、そしてそこにかかわってきた人々に対するリスペクトであるとか、そこからまた新しい伝統を創造していくんだという部分が、新しい視点を加えて、閉園するから、閉園でいいだろうということではないのではないか。

次回、神森幼稚園も認定こども園になって開園していくわけですが、浦添ももちろんそうですが、やはり私たち教育委員会もこども未来部も、しっかりと心を通わせて、閉園もするし開園もする。それは子供たちにとってもそうだけれども、そこにかかわる保護者にとっても、または地域の皆さんにとっても、そういうことを大事にしてやっていくんだということを示す必要があるのかなと。そういう取り組みが式典には求められているのかなと思いました。ですから、次回、認定こども園の開園式が行われていくわけですが、そこら辺もしっかりと事務局も含めて、対応していく必要があるのかなと思ったので、市長と認識を共有したいと思っています。

○市長（松本 哲治）

今回、閉園式に私は参加しておりませんので、どういう内容だったかはわからないのですが、やはりこれまでの長い歴史、多くの方が通われて、名前一つにしても、浦添幼稚園と神森幼稚園、それだけでもすごく、

思い入れやこれまでのいろいろな歴史等も含めてあると思います。ですから、そういった意味では、やはり一つ時代の流れで、必ずいい方向にいくと信じておりますけれども、やはり幼稚園という名前がなくなって、また新たなこども園が誕生していくという意味では、一つ開園式のみならず、閉園式のあり方も、今、委員の方がおっしゃったように、きちんとリスペクトを持って、丁寧に一つ一つ区切りとしてきちんとやっていく必要があるだろうと思っておりますので、また今後の閉園式、これを閉園式と呼ぶかどうかも含めてですけども、そういった思いがきちんと伝わるように、しっかりと過去を見つめて、受けとめて、また次の未来に向かって進むという式典にしていきたいと思っております。御意見ありがとうございました。

ほかに何かございませんか。

○教育長（嵩元 盛兼）

最後にいいですか。私のほうから。幼児教育の重要性については、教育委員会の中でも池田先生を筆頭に、何度も議論しています。ただ、実際の幼稚園と認定こども園、その改善が始まったとも受けとめていますし、現場の多少の混乱は、浦添型の幼児教育の完成に向けて、まだまだ道途中といえますか、スタートしたばかりなので、やはり幼児教育が完成しないと、小学校、中学校というのも、やはり問題は大きくなっていくので、その意味で、教育委員会の中では幼児教育の重要性というのは、非常に議論をしています。その意味では、認定こども園という形で一つになっていますから、その目的を外さないためにも、教育委員会としては学校側の教育は当然頑張っていきます。認定こども園との協議も進めていきますので、市長が当初から言った一人も残さないといえますか、幼児教育のところをしっかりと教育委員会も務めていきますので。その意味で、課題が出たら当然改善、よくなるための課題として受けとめて改善していきますので、引き続き、一緒になって浦添型の仕上がりができるように頑張りたいと思っておりますので、教育委員も頑張りますので、市長ともども、仕上げに向かって頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○市長（松本 哲治）

ありがとうございました。きょうもたくさんの御意見を頂戴して、本当にありがとうございます。

まとめになりますけれども、本日の協議事項の1項目、答申についてですけれども、もちろんこれも繰り返しになりますが、しっかりとした議論がされた答申ですので、我々がそれを尊重していくというのは当然のことです。しかしながら、あくまでも出発点は当山小学校の過大規模の解消でありましたので、その直近の問題についてもしっかりと検討して、解決できるように進めていただきたいと思っております。答申内容がしっかりと実現していくためにも、さまざまな課題もありますので、それは市長部局を含めて、みんなできちんと検討していただきたいと思います。

それから協議事項2点目のこども園に関しましても、御存じのように、これから浦添市内の幼稚園は全て公立及び公私連携型の2つですけれども、認定こども園化になっていきますので、順次なっていくので、先に認定こども園化したところのよかった点のみならず、課題点もしっかりと振り返りながら、あとからついてくる認定こども園が、さらによりよい認定こども園になっていくように、これからは皆様のお力を借りて、しっかりと進めていきたいと思っておりますので、これからは、ますます教育委員会とこども未来部の連携、さらには我々市役所と教育委員会現場の皆さんとも連携をしっかりと取って、橋渡しをしながら一致団結して、心を一つに、全ての子供たちのためにでございますので、キッズファーストの精神をしっかりと酌んでいただいて、これからは御協力のほどよろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、これにて本日の総合教育会議、終了いたしたいと思います。
本日はまことにお疲れさまでございました。